

皮膚科

■ 教授からのメッセージ

全国の医学生、研修医のみなさんに、京都大学皮膚科から入局への熱いメッセージを送ります。

いま皮膚科学は旧来の記載皮膚科学を脱却し、分子生物学から臨床皮膚科学までを網羅した壮大な学問体系になりました。その進歩の息吹を皆さんにも感じていただき、一緒に皮膚科学を楽しんで欲しいと思います。皮膚科学は皮膚という臓器をターゲットに、その内科も外科も病理もすべて専門領域とする診療科です。そのため、皮膚でおこるすべての疾患を内科・外科や老若男女問わず最初から最後まで責任を持って診療に取り組みます。数年の臨床研修の間に、自分の興味の対象を決めて自らのサブスペシャリティーとすることができますので、自分の適性にあった方向性を多様な選択肢の中から選べます。

現在、教室には皮膚アレルギー、皮膚外科、皮膚発癌、皮膚分子生物学、膠原病、皮膚再生・毛髪生物学など多彩な専門性を持った人材が臨床や研究に励んでいます。皮膚科研修は、多様性を許容する自由な雰囲気の中で、しかも多くの先輩の包容力に育てられて育まれるべきものです。京都大学皮膚科はみなさんの皮膚科学への情熱に応えられるだけのパワーとエネルギーに満ちています。

京都大学皮膚科では出身大学などによる学閥の様なものは一切存在しません。入局者全員が心地よく研修できる様な環境づくりを目指しております。見学に来られた方には、必ず私がお会いして直接お話しをするようにしています。皮膚科ホームページの募集案内に掲載された連絡先までお気軽にメールでお問い合わせ下さい。

気力と体力と野心にあふれたみなさんの入局を心より歓迎します。

京都大学皮膚科学教室 教授 梶島健治

■ 診療科の主な症例と症例数

京都大学皮膚科での近年の1日平均外来数120名、1日平均入院患者数20名、局所麻酔年間手術数900例、全身麻酔年間手術数70例で推移しています。指導医資格を有する皮膚科専門医11名による手厚い指導心がけています。

手術以外にも皮膚悪性腫瘍に対する化学療法・分子標的治療・免疫チェックポイント阻害薬等の先進的医療を経験し、総合的な知識を習得できる環境が整備されています。

■ 専門医取得のための研修が可能な関連施設について

京都大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、研修連携施設、研修準連携施設と連携し、各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定しています。

京都医療センター・洛和会音羽病院・医仁会武田総合病院・十条武田リハビリテーション病院・京都桂病院・三菱京都病院・大阪赤十字病院・高槻赤十字病院・大阪府済生会野江病院・枚方公済病院・田附興風会医学研究所北野病院・大阪府済生会中津病院・滋賀県立成人病センター・大津赤十字病院・長浜赤十字病院・日本赤十字社和歌山医療センター・倉敷中央病院・天理よろづ相談所病院・尼崎総合医療センター・鹿児島医療センター・浜松医科大学・香川大学、これらの病院以外にも多数の地域基幹病院が関連施設となっており、研修が可能です。

■ 取得できる認定医・専門医

皮膚科専門医、最短5年。皮膚科専門医を取得後、アレルギー専門医など取得可能。

■ 留学の可能性

あり（大学院卒業後、毎年1-2名海外留学）。留学先は北米・欧州・オセアニア他。

■ 関連大学病院

関西医科大学、大阪医科大学、浜松医科大学、香川大学、琉球大学、ほか多数。

■ 研修修了後の進路

大学院または大学病院・関連病院勤務・希望があれば他病院への就職など。

■ 標準的な研修コース

コース	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	京大	京大	連携	連携	京大
B	京大	連携	連携	連携	連携
C	京大	連携 (皮膚外科)	連携 (皮膚外科)	連携 (皮膚外科)	連携
D	京大	連携	連携	準連携	京大
E	京大	連携	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)
F	連携	連携	京大	連携	連携

A：京大を中心に研修する基本的コース。最終年次に大学で先輩を指導し、自らの不足を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、事情により2年間同一施設もあり得る。

B：ただちに皮膚科専門医として活躍できるよう連携施設にて臨床医としての研修に重点をおくコース。

C：研修2年目に皮膚外科症例が豊富な連携施設で研修し、皮膚外科医を目指すコース。

D：研修4年目に一人医長として研修準連携施設で地域医療を経験し、翌年大学で研修するコース。

E：研修後半に博士号取得のため研究を開始するプログラム。研究への熱意を重視するコース。

F：連携施設から研修を開始し、臨床医としての研修に重点をおくコース。

■ 地域連携プログラム（例）

コース	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	京大	京大	滋賀県内連携	滋賀県内連携	奈良県内連携
B	滋賀県内連携	滋賀県内連携	兵庫県内連携	京大	京大

A：最初の2年間で京大及び京都府内連携施設で研修、残りの3年間で京都府外で研修するコース。

B：最初の3年間で京都府外で研修し、残りの2年間で京大及び京都府内連携施設で研修するコース。

■ 京大での研修概略

外 来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

病 棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会：毎月1回英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 回診	病棟 病理	病棟 カンファレンス 回診 病理	病棟 手術	病棟 手術		